

抱樸館を支える会 会報

21号



2016年12月1日 発行:抱樸館を支える会

きずな祭は笑顔であふれました。

今年の抱樸館福岡のきずな祭は11月5日(土)に、同じ敷地にあるふくしセンター多の津と共催で開催されました。



晴天に恵まれ、自立者(卒業生)、入居者、地域の人達、NPO法人抱樸の関係者、グリーンコープの関係者など、多くの方の参加がありました。



開会式では、地域を代表して自治連合会会長のご挨拶をいただき、その後、のど自慢大会、フラダンス、日舞、炭酸早飲み大会、バンド演奏、などが演じられまし



が、なかなかうまくつかめず、応援の声もにぎやかでした。

た。今年はきずな祭のテーマが“つながろう”だったので、初めて「つながげよう大豆リレー大会」が開催されました。箸で大豆をつかんで容器から容器に移すのです



テントのバザーでグリーンコープの産直豚肉の鉄板焼き、だし巻き卵、皿うどんなど、また近隣作業所からの出店もありました。食堂では厨房スタッフによる牛丼、おでん、おにぎりなどの販売を行ないました。



中庭では、自立者によるとんぼ玉(ガラスのビーズ)作品の販売、お抹茶の楽しめるコーナー、射的のゲームでは景品もあり、みんなが楽しみました。



室内では今年初めてオセロのトーナメント戦も行なわれました。

入居者による生花、短歌やパステル画の作品展示も好評でした。



終日各コーナーがにぎわって楽しく過ごし、最後にみんなできずな祭のテーマソングとなっている「ふるさと」を歌いました。

きずな祭には多くの卒業生も参加され、卒業生同士の出会い、そしてスタッフや地域の皆さんとの出会いの場として定着していることが感じられました。きずな祭には多くの地域の皆さんが参加され、地域の町内会からテントもお借りし、来賓挨拶、フラダンスや日舞、バンド演奏など地域のご協力抜きに語れない祭りとして定着しています。



ご協力・ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

料理練習会を取材しました。(11月12日)

料理練習会は、抱樸館福岡の卒業生を対象に月に1回開催しています。アパートなどに住み始めて自炊をすることになるのですが、それまで料理をあまりしたことがない人も、「自分で作って食べる」意欲と技術を身につけ、またそのことで食生活の見直しにもつながるようというところで開催しています。場所は抱樸館福岡のすぐ近くの津屋本町公民館です。

始まる前の打ち合わせです。

今回のメニューは、チャンポンとおにぎり、それにフルーツポンチです。

始まる前にスタッフと世話人さんと打ち合わせです。ここで参加費で買い出した材料がそろって



いるかも確認します。チャンポン用の野菜は人参、キャベツ、玉ねぎ、もやし、それにかまぼこ、ちくわ、あとは麺とインスタントスープです。おにぎり用のお米、ふりかけ、フルーツポンチ用の缶詰やサイダーの確認をします。

おにぎりはポリ手袋がないようですのでラップにくるむことにしました。本日の参加者は18人です。米は5合で良いのではないかと、いややはり1升くらいは要るのではないかと、などにぎやかで、1升炊くことになりました。

ボランティアの樋口知恵さんは先週のきずな祭で初めてボランティアをされ、料理練習会は初参加だそうです。

最初は手順の打ち合わせです。

それぞれ自己紹介します。毎回公民館の方にも参加いただいている、本日も2名の方が、おられます。

手順を確認します。

- ・まず野菜を切って、肉と野菜をフライパン4個で炒める。

- ・スープは出来合いのものを使う。だから味はチャンポンになるはずである。
- ・ご飯はふりかけをかけてラップで包む。
- ・フルーツポンチは缶詰をあけてサイダーを入れるだけである。

説明は簡単に終わり、皆さん手を洗い、エプロン、バンダナをして始めます。

人参、キャベツ、玉ねぎを切っていきます。「キャベツはもう少し小さい方が良くないか」、「野菜が少ないようだ、もやしを追加で買ってくるか、28円で売っているだろう」などという話もしていますが、買いには行きません。

「料理練習会をすると、以前は“元コック”の人などがいたよね」という人がいれば、「ここんところそんな人は仕事に就いてしまっただけなくなったのよね」と返ってきます。

「金がないときはせめてお米だけは贅沢にするようにしている。だから“夢つくし”を買ってきた。米がおいしいと醤油をかけてそれだけでもいける」という話も出ます。

豚小間のパックを開けながら、「肉はこま切れだから切らなくて良い」という人がいれば、「やはり切った方が良い」ということも言われ、結果的に5cm位に切ることになりました。

そして、20分くらいで豚肉と野菜をフライパンで炒め始めました。そうすると遠くで「もやしを早く炒めると水っぽくなるのだが」と聞こえないような声でしゃべる人がいます。指示出しする船頭も多く、和気あいあいと実になぎやかです。

山口儀一さんに包丁研ぎをしている写真を撮る約束をしていました。山口さんは以前は大工だったということで、とてもうまく研ぎます。抱樸館福岡の厨房の包丁も研いでいただいたこともあるようです。山口さんが研いだ包丁で野菜のカットもとてもうまくいくようです。



10時半過ぎには野菜の炒めも終了です。この後の作業としてはこれを大なべに入れてお湯を注ぐのですが、小さな計量カップしか見つかりません。ヤカンから計量カップに入れようとしていたら大きな計量カップが見つかりました。500ccの計量カップで6カップを入れた鍋を火にかけます。

いよいよ仕上げに入ります。

沸いたお湯に粉末スープを溶いて、炒めた野菜とかまぼこ・竹輪の切ったものを入れていきます。麺は袋から出してまとめて鍋に入れます。そうこうしているうちに出来上がってきたようです。井につき分けて行きます。

おにぎりは炊いたご飯にふりかけを混ぜてラップで作って行きます。

フルーツポンチです。こちらは缶詰をあけて行くのですが、若い抱樸館のスタッフは缶切り

を使ったことがないということで、抱樸館福岡の卒業生の出番です。「こうやって使うのよ」と言ううちにスタッフも要領が分かってきました。シロップを捨てて、コーヒークップにつき分けて行きます。そしてサイダーを入れて出来上がりです。



いただきます。

食べる間はしばし沈黙ですが、とてもおいしそうに食べています。

食事が落ち着いてからお聞きすると、皆さん「美味しかった」という感想で、初めてチャンポンを作ったという方もおられました。大満足だったようです。



「ごちそうさま」をして、片づけになります。食事した部屋には掃除機をかけ、調理場はモップで拭きあげます。公民館の館長さんに「ありがとうございました」の挨拶で終了です。

毎回ミーティングをします。

ミーティングは食事の後にすることが多いのですが、今日は時間が取れたので調理の合間に

しました。11月から12月にかけての行事の紹介と、参加の確認などをしていきます。

今回は12月10日なので、少し豪華にクリスマスパーティー料理にしよう、となりました。会計の残金もあるとのこと、次々と希望が出されます。

骨付きチキン、ちらし寿司、お吸いもの、サラダ、スポンジを買ってきて生クリームでケーキ作り、ジュースなど……。この中からメニューを選ぶそうですが、骨付きチキンは是非ということになりました。



お二人の方にお話をお聞きしました。

卒業生の村山一志さんにお聞きしました。

「久しぶりに、3か月ぶりに来ました。新聞配達をしている時に股関節を痛めてこの料理練習会も休んでいました。先週のきずな祭で皆さんにお会いして来てみようということということで参加しました。チャンポンは美味しかったです。寒くなるので週1回くらい作っても良いかなと思いました。」

初めてボランティアで参加された樋口知恵さんにお聞きしました。

「すぐ近くのグリーンコープの福岡物流センターで2年前くらいから働いています。ボランティアを募集しているのをお聞きして、先週のきずな祭(11月5日)にボランティアとして初めてお手伝いしました。今日は、チャンポンを大鍋で作るのは初めてだったので、うまく行ってホッとしています。時間が取れば手仕事などのボランティアもやってみたいと思っています。」



皆さんお疲れ様でした。おいしいチャンポンをいただきました。おにぎりもいただいたのでお腹がいっぱいです。月に一度、ワイワイがやがやと集まって料理を作る卒業生の皆さんは、お腹も心もいっぱいになるようです。



「フリーターでは生活できませんでした。」

——Mさんのこれまでとこれから

Mさんは40代前半の男性です。抱樸館福岡には3年くらい前に8ヶ月間くらい入居していました。つい最近グリーンコープの青果リパックでアルバイトとして働き始めました。Mさんにこれまでとこれからをお聞きしました。



(注) 青果リパック：生産者からグリーンコープ連合に箱やコンテナで届いた野菜や果物を、規格に合わせて袋詰めや箱詰めする部署。

——生まれと学校などを聞かせてください。

「生まれは篠栗町で2歳までいたのですが記憶はありません。3歳からは福岡市内に引っ越しました。小学校・中学校、市内の私立高校の普通科を出ました。」

——お父さんは何の仕事をしていましたか。

「ちょっと分かりにくいのですが、父は自分で食料関係の新聞を作っていました。一人でやっていたので、経営者でもあり、記者もしていました。母と兄の4人家族でした」

——高校卒業後は就職されたのですか。

「就職先がないなどではなく、最初からそのつもりでフリーターになりました。」

——そういえばこのころ「フリーターとしての生き方」みたいなものがもてはやされた時期ですね。具体的にはどんな仕事をされたのですか。

「いろいろやりましたが、コンビニ店員や派遣で工場勤務などをしました。工場勤務が一番長かったです。工場といっても1か所ではなく、結構移動しました。工場は慣れるまでは大変ですが、慣れてしまえば対人関係もないので気楽ではありました。」

——給与はどれくらいだったのですか。

「コンビニ店員の場合は夜勤をすると14～5万円、工場勤務では20万円位になり、日々の生活には困りませんでした。」

——自宅から通っていたのですか。

「20歳で家を出ました。アパート住まいです。」

——フリーターの生活に終わりが来たのですよね。

「36歳のころです。当時北九州の工場で働いていたのですが、ちょうどリーマンショックの後で景気が悪くなり派遣切りにあいました。」

——その後、どうされたのですか。親には連絡しなかったのですか。

「派遣切りにあった時に、手元に10万円くらいありました。現金がある間はホテルやネットカフェで過ごしました。いよいよ金がなくなり、路上で生活することになりました。親には連絡しませんでした。」



——路上生活の様子を聞かせてください。また食べ物はどうされていたのですか。

「公園で2～3週間過ごしました。公園で寝るのはなかなかできなかったもので、昼は図書館で居眠るような具合で、夜はベンチでじっと過ごしました。食べ物は、全く食べませんでした。水だけを飲んで過ごしました。」

——その間も仕事はさがしていたのですか。

「雑誌などを見て連絡したりしていました。携帯電話は、途中まで使えたのですが、料金を払っていないので、途中で使えなくなりました。」

——そのころ、どんなことを考えていましたか。

また、抱樸館との出会いは？

「そのころ『自分はどうなってしまうのだろうか。』とっていました。ホームレスをしている人に聞いて博多区役所に行き、“何か良い方法はないですか”ということ相談し、紹介されたのが抱樸館福岡です。」

——抱樸館福岡に来た時の印象はどうでしたか。

「ええっ、という感じでした。当時は、怒鳴りあいのケンカがあつてたりもしましたので。でも何とかここで生活していこうと思いました。生活の心配をしないで済むということでは良いところだと思いました。」

——今は抱樸館福岡のことをどう思っていますか。

「良いところでした。何でも相談できて、スタッフの皆さんもとても温かいところでした。一番大きかったのは抱樸館にいる間に自分のことを振り返って考えることができたということです。今、自分が将来のことを前向きにいろいろ

考えることができるようになったのもスタッフの皆さんの温かい励ましがあった



からだと考えています。」

——抱樸館にいるときに何か研修などを受けたか。

「ハウスクリーニングとパソコンの研修を受けました。パソコンは基礎の操作だけだったので具体的に仕事に生かせるまではありませんでした。」

——抱樸館を出るときには仕事が決まっていたのですか。

「仕事が決まって抱樸館を退去しました。病院の食器洗浄の仕事です。朝6時から夜9時半までのアルバイトで、実労働11時間、週5日です。社会保険もついていたのですが、ちょっと過酷で1年半くらいは頑張っていたのですが、辞めました。それから仕事が無い時期がしばらく続いたのですが、作業服の販売店で3ヶ月くらい働いていました。ここは勤務時間が短いので収入が少なく、ちょうどグリーンコープの青果リパックでのアルバイトの話があったので最近働き始めました。」

——生活保護は受けているのですか。

「抱樸館に入って、すぐ生活保護を受給し始めました。病院の食器洗浄の仕事をし始めて半年くらいで生活保護受給しなくなりました。病院の仕事をやめて、生活のメドが立たなくなったので抱樸館福岡に相談しました。そして再度生活保護を受けはじめ、現在も生活保護を受けています。グリーンコープのアルバイト収入では自活できず、生活保護を受け続けることとなります。」

——家族とは連絡を取られているのですか。

「兄は30歳前くらいに病気で亡くなりました。父と母は元気です。連絡を取っているのですが、父が自営業だったので年金もそんなになく、と

ても養ってもらえる状況ではありません。」

——ここまでを振り返って思うことがありますか。

「後悔しかありません。仕事などを長く続ければよかったと本当に思っています。今更若い人と一緒に仕事をするのは体力的にも厳しくなっています。」



——これからやりたいことを聞かせてください。

「ちゃんとした仕事に就きたいですね。そして生活保護受給しなくてよいようになりたいです。グリーンコープのアルバイトだけでは生活保護から外れて自立できないので、アルバイトをしながら仕事をさがしたいです。」

——ありがとうございました。

第5回つくしのつどいが開催されました。

「つくしのつどい」は、えにしの会（抱樸館福岡ボランティア部）の世話人会で、2ヶ月に1度集まっています。

11月9日、退居者6名、パステル画の講師、抱樸館福岡のスタッフ4名で開催されました。

えにしの会の行事などについて相談します。今回は、

- ・11月19日の舞鶴公園での紅葉狩り
- ・11月5日のきずな祭についての意見交換
- ・園芸部の取り組み確認
- ・卒業生の見守り活動について
- ・えにしの会懇親会（総会）の開催時期などの相談をしました。

卒業生の見守りについては、地区で分担してできないか、などの相談に入っています。

また、次回のえにしの会懇親会は2月か3月に開催するよう準備することになりました。

（えにしの会は抱樸館福岡の卒業生とボランティア活動を支えてくださっている皆さんの会で、卒業生は71名、総勢で94名です）



「抱樸館福岡園芸部」、活動始まる。

「抱樸館福岡園芸部」が活動を始めたということですので取材させていただきました。

園芸部は6年前の抱樸館福岡開設後に1年間くらい活動していましたが、その後は休止していましたが、今回活動再開のきっかけは、会報19号で案内した緑のカーテンの取り組みとのこと。



抱樸館福岡が出来て6年以上経つので、卒業生の中で自分たちの故郷でもある抱樸館福岡で何か面白いことをしたいという機運も盛り上がったようです。この園芸部は、卒業生が「抱樸館福岡のために何かをしたい」という気持ちで集まって活動し、定期的に交流できる場になっています。



メンバーは8名で、うち2名は入居者で、抱樸館福岡の担当スタッフは、三堀館長と樋口副館長です。

冬野菜には、ちょっと遅めの9月27日に本格スタートしました。

9月27日にスタート、写真は芝生だった部分で、掘るとききれいな真砂土のようです。

この日に種まきや定植もしました。種まきしたのは、春菊、小松菜、紫玉ねぎ、九条ねぎ、細ねぎ。定植したのはブロッコリーです、別の場所にバレイショも植えました。



毎週金曜日に集まって作業します。

金曜日は「カフェさんぽみち」もあって集まりやすいので、みんなで作業する日にしました。

でも気になって毎日来る人もいます。

(写真は別の場所にあるバレイショ畑で、男爵とメークインを植えているそうです。)



10月28日は取材ということで7名の皆さんに集まっていただきました。

少し前から、小松菜とブロッコリーは虫に食われて大変です。この日も朝から皆さん袋を持って虫取りです。

外来種のナメクジは巻貝ですので、捕るのは簡単ですが、捕っても捕っても湧いて来ます。また畝が曲がっていたり、畝の間の谷にも種がまかれていますので、足の踏み場もない状態です。理由をお聞きすると、「空き」があると、とにかく種をまく人がいるそうでした。



11月12日の畑です。

この日も園芸部のメンバーが虫取りをしていました。



11月18日に収穫した春菊を抱樸館のみそ汁に使いました。

朝から皆さんが集まり、春菊を収穫しました。収穫した春菊は昼食のみそ汁に入れました。園芸部の皆さんは自分たちが作った野菜がメニューに使われて満足ようです。

でも虫食いの小松菜はちょっと使えないかもしれません。ねぎも小さく、冬の寒さでどうなるか心配です。(写真下：厨房スタッフに春菊を手渡す)



次年度は畑を拡大して野菜作りをするそうです。

今回、畝の中にすべての野菜の種をまき、ほうれん草の隣に小松菜があり、その横に春菊がある、更にねぎもあるという状態になっています。これでは作業のメドも立たないので、畝をいくつか整備して、畝ごとに作物を変えて作るそうです。その状態を報告できるのは来年の果菜類(トマトやきゅうり、ピーマンなど)からになると思います。乞うご期待!!

抱樸館福岡の卒業生も通っている

トライアングル(就労継続支援事業B型)取材しました。(11月8日)

トライアングルはJR福北ゆたか線の篠栗駅のすぐそばにある「社会福祉法人福岡あけぼの会」のB型作業所です。管理者の佐々木寿美さんにお聞きしました。

——B型作業所について教えてください。

「トライアングルは民間の企業などで働くことが不安だったり困難である方に対し、働く場所を提供します。」(後掲注参照)

——就労支援の内容などについて教えてください。

「就労支援は月曜日から金曜日まで、1日4時間ですが1時間ごとに昼休みも含めて休憩を取ります。訓練の主な仕事は内職と弁当作りです。内職は紙箱の組み立てが中心で、タオルの箱詰めや香典返しの箱詰めなどもあります。弁当は1日100～170食です。店頭でも教食は販売していますが、ほとんどは事業所からの事前予約です。町役場、老人ホーム、一般の会社などから注文をいただいています。」

——内職は一般の会社から仕事が来るのですか。

「3カ所の一般企業から仕事を請け負っています。それでも仕事に季節変動があるので、仕事がないときはアクセサリー(ミサンガなど)を作ります。アクセサリーはバザーやネットで販売しています。」

——利用者スタッフについて教えてください。

「登録している利用者は20代から60代の22名です。そのうち日々来られる方は大体15名くらいで、弁当作りに5名、内職に10名くらいです。弁当作りの利用者のうち2名は調理師免許を持っています。スタッフは10名です。」

——工賃はどれくらい支払っているのですか。

「内職と弁当作りでは少し時間単価が違いますが時間単価は200円台ですね。この事業所は1日4時間になっていますので、月～金の毎日来られると1か月で大体2万円くらいになります。」

——それだけでは生活できないですよ。利用者はどう生活しているのですか。

「生活保護や障害年金を受給している人、あるいは家族と一緒に生活していて、(特に何らかの)公的助成がなくても生活できるという方もおられます。」



——佐々木さんについて少し聞かせてください。

「社会福祉法人あけぼの会で5年目になります。官公庁に9年、そのあと民間の会社に5年いました。福祉関係の仕事をしたいと思い、日本福祉大学福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科の通信教育で学びました。縁あって、福岡あけぼの会で働き始め、昨年4月からトライアングルの管理者になりました。」

——抱樸館の退居者について聞かせてください。

「現在2名の方が通われています。1名は女性で、厨房や内職作業を楽しいとおっしゃってくださいます。接客が上手で地域の方々にも好印象だと感じます。もう1名は男性で、調理師免許を持っておられ、厨房には欠かせない方です。また営業にも熱心でいらっしゃる、販売等で活躍されています。」



もう1名は男性で、調理師免許を持っておられ、厨房には欠かせない方です。また営業にも熱心でいらっしゃる、販売等で活躍されています。」

——お楽しみ行事があるそうですね。

「行事としては、バスハイク、ボーリングやカラオケ、クリスマス会、忘年会、野外でのバーベキュー、地域のソフトボールやバレーボール、篠栗町文化祭への出店など様々に利用者さんやスタッフみんな楽しんでます。」

——留意していることがありますか。

「就労継続支援というサービスは、その人の持つ能力にあった仕事を提供することと考えますが、利用者さんは様々な障がいをお持ちであり、症状や性格も一人ひとり違います。内職や弁当づくりといった限られた仕事の枠で、その方が無理なく楽しく働くことの意義や喜びを見出し、力を発揮できるように、心がけています。」

——これからやりたいことを聞かせてください。

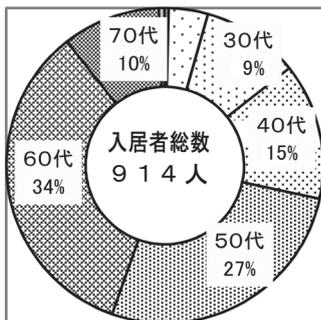
「利用者さんのお力は凄いです。お弁当や内職の売上也年々伸びており、これは利用者さんが日々頑張っていることや、利用者さんの明るい雰囲気がアットホームで笑いの耐えない場をつくっており、利用者さんやスタッフが働きやすい場所になっているからだと思います。この利用者さんの力を最大限に引き出し、トライアングルの全ての利用者さんが、ご自身の目標やこうなりたいというご希望が実現できるような支援を行いたいと思います。」

——ありがとうございました。

(注) 別に「A型」施設もあり、A型の場合は就職一歩手前で最低賃金法の規制も受けます。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2016年10月末までの入居者



	人数	割合
10代	4	0.4%
20代	38	4.2%
30代	86	9.4%
40代	134	14.7%
50代	249	27.2%
60代	308	33.7%
70代	89	9.7%
80代	6	0.7%
計	914	100.0%

2016年10月末現在の入居者

52人 (定員81名) 男性52人、女性0人

2016年9～10月の新入居者数・退居者数

新入居者数27名 退居者数20名

(注: 10月末までの入居者数914人は、
2度・3度入居した人も1人と数えています。)

抱樸館下関・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日: 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員: 以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協 (14生協)
- グリーンコープ連合
- NPO法人 抱樸 (旧: 北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2016年10月末の賛助会員は、以下の通り

グリーンコープの共同購入組員	8249名
グリーンコープの店舗組員・一般の方	166名
企業賛助会員	106社

その他 (抱樸館の所在地)

抱樸館福岡 (福岡市東区)	2010年5月開所
抱樸館下関 (山口県下関市)	2007年4月開所
抱樸館北九州 (北九州市八幡東区)	2013年9月開所
抱樸館熊本: 準備中	

抱樸館福岡の見学のご案内

- (1) グリーンコープ生協として見学される場合は、所定の用紙でお申込ください。
- (2) 個人もしくは知り合いと一緒に

に見学される場合は、直接抱樸館福岡にご連絡ください。
◇出来れば5名以上でお願いします。(ホームページからも見学の申込が出来ます)

なお、1名あたり1000円の見学料をお願いしています。これには昼食代を含んでいます。昼食は入居者が日ごろ食べている食堂で同じものを食べていただきます。

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく (年間で3000円です)

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。

共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- ②101000円の賛助会費を申し込みいただく。何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

- ①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

一般の方、グリーンコープの店舗組員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ

担当 家原 電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-1-1

抱樸館下関 (電話 083-223-4544 FAX 電話と兼用)

〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-5-25